

ペニシリン系抗生物質製剤
要指示医薬品 指定医薬品 使用基準

アンピナトリウム注

【本質の説明】

本剤は、アンピシリンナトリウムを有効成分とする注射剤です。アンピシリンナトリウムは、広い抗菌スペクトルをもち、グラム陽性菌及びグラム陰性菌に殺菌的に作用します。溶解液として日局注射用水又は日局生理食塩液を用い、水に溶けやすい製剤です。

【成分及び分量】

本品1バイアル中

有効成分	含量
アンピシリンナトリウム	5g（力価）

【効能又は効果】

有効菌種：本剤感性ブドウ球菌、レンサ球菌、コリネバクテリウム、大腸菌、サルモネラ、バスタレラ

適応症 牛：肺炎、乳房炎、産褥熱

【用法及び用量】

用時、日局注射用水又は日局生理食塩液を用い、1g（力価）当たり5mLに溶解する。

1日1回、牛の体重1kg当たりアンピシリンとして下記の量を静脈内に注射する。

牛：肺炎、乳房炎4～8mg（力価）、産褥熱6～8mg（力価）

【使用上の注意】

〔基本的事項〕

1 守らなければならないこと

（一般的注意）

- ・本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- ・本剤は効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- ・本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- ・本剤は、4日以上連続投与を避けること。
- ・本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。

注意：本剤は医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、牛について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。

牛：食用に供するためにと殺する前3日間又は食用に供するために搾乳する前72時間

（取扱い及び廃棄のための注意）

- ・注射器具は滅菌されたものを使用すること。
- ・本剤は溶解後、できる限り速やかに使用すること。保存する場合でも、冷蔵保存で6時間を経過したものは使用しないこと。
- ・小児の手の届かないところに保管すること。

- ・本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

2 使用に際して気を付けること

（使用者に対する注意）

- ・本剤は抗生物質製剤なので、使用者の体質によっては皮膚炎などのアレルギー症状を起こすことがあるため、皮膚に付着した場合には、直ちに水で洗い流すこと。
- ・誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。

（対象動物に対する注意）

- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

〔専門的事項〕

（重要な基本的注意）

- ・本剤は過敏症反応をまれに起こすことがあるので、投与前に使用経歴や反応の有無を調べ、陽性動物には投与を避けること。なお、本剤注射後、ショック症状や過敏反応が現れた場合には注射を中止するなどして慎重に観察し、その後の注射の可否について検討すること。
- ・本剤の静脈注射はゆるやかに行うこと。
- ・本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、適応症の治療上必要な最小限の投与にとどめること。

【製品情報お問い合わせ先】

リケンベッツファーマ株式会社 梅田工場
〒123-0851 東京都足立区梅田1-29-12
TEL：03-5888-6044

製造販売業者



リケンベッツファーマ株式会社
埼玉県入間郡越生町成瀬829-6

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所（<https://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>）にも報告をお願いします。